

佐伯保養院：ラダー表

レベル	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
レベルの定義	基本的な看護手順に従い必要に応じて助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
目標	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえニーズをとらえる
ニーズをとらえる力	<ul style="list-style-type: none"> □助言を受けながら疾患や障害に関する情報収集ができる □身体面について、助言を受けながら観察やデータに基づきアセスメントができる □助言を得ながら疾患や障害による日常生活上の留意点を挙げることができる □患者・家族の精神面に関する情報を、助言を得ながら整理することができる □患者・家族の現状に対する認識を把握することができる □一般的な医療保険制度の基本を理解する □入手した患者の情報について、守秘義務の遵守、個人情報保護遵守のもと、取り扱う重要性が理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> □身体面について、自立して観察やデータに基づきアセスメントができる □決められた枠組みに沿った内容について、多職種から情報収集を行い、患者を生活者として捉えるために、問題点を整理する方法が理解できる □患者・家族の精神面に関する問題を、自立して整理することができる □精神看護に関連する医療保険制度の基本を理解する □入手した多職種からの情報も含め、守秘義務の遵守、個人情報保護遵守のもと、取り扱う重要性が理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> □個別性を踏まえ、多職種からの情報も得て、患者にとって必要な情報収集を行い看護計画の修正や追加の必要性を考慮することができる □療養生活に対する患者・家族の思いや希望を価値観・信念・信条・思いなどを尊重しながらより深く意図的に確認することができる □情報収集をもとに、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面のあらゆる情報から総合的に患者をとらえ、優先度の高いニーズをとらえる 	<ul style="list-style-type: none"> □患者から症状の訴えがあった場合、原因としてあらゆることを想定して患者の体内で起こっている現象を考えながら、意図的に観察し、アセスメントできる □患者や家族の生活の中で起こりうる課題や症状の予測的判断ができる □疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測した上で、患者の過程での役割、仕事の内容、疾患に対する思いなどを意図的に焦点化して確認した上で、収集した情報を統合してニーズをとらえることができる □患者・家族の感情表出を促進するコミュニケーションが実施できる 	<ul style="list-style-type: none"> □複雑な状態にある患者の症状から、現在の状況判断及び予測的な状況判断を説明することができる □複雑な状況における疾患や障がいによる患者の生活の中で起こりうる課題を予測することができる □地域全体を俯瞰して、ニーズに対して不足している機能に気づき、他施設などに働き掛けることで解決を図る □患者の感情表出を促進するコミュニケーションが実施できる
目標	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践することができる	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
ケアする力	<ul style="list-style-type: none"> □看護記録の目的・意義を理解の上、助言を得ながら基礎情報、看護計画、経過記録、看護サマリーの記録ができる □基本的な日常生活援助技術を、助言を得ながら根拠に基づき安全に実施できる □災害発生時の連絡体制について理解し、初期行動を理解できる □暴言・暴力・ハラスメントに気づき報告できる □感染予防策の基本を遵守できる □日常の健康管理と有症状時の対応ができる □医薬品管理の留意点を理解して、安全に薬剤を投与できる □事例を用いて一次救命処置を実施し、助言を得ながらその実施の根拠を説明できる 	<ul style="list-style-type: none"> □自立して患者の苦痛や安楽を確認しながら、正確に基本的な看護技術を実施できる □医療安全ガイドラインやマニュアルの視点から安全を確保する方法を理解できる □安全な看護実践をするための優先順位を考え、事故発生時の看護記録(経時記録)を行うことができる □災害発生時を想定した初期行動を実施できる □患者や実践の場における感染リスクをアセスメントし、看護計画を立案・実施できる □精神科の薬剤の基本知識を理解した上で、薬剤投与時・中・後の観察を実施する。 □事例(心肺停止以外)を用いて一次救命処置を実施し、その根拠を説明できる □事例を用いて、救急・急変時の看護記録を記載できる 	<ul style="list-style-type: none"> □ケアに要する物品、時間、体制等ニーズに応じて工夫することができる □患者の顕在的・潜在的ニーズのケアへの反映について事例を用いてセルフケア能力の向上支援を説明できる □日常の看護提供場面における事故発生リスクに気づき解決策を立案できる □暴言・暴力・ハラスメントに対して対応・防止できる □事故事例を用いて、事故発生の要因を分析し、解決策を立案できる □感染発生時に、マニュアルや基準に沿って感染拡大防止の対応を実施し、その情報を共有できる □薬物の作用を考慮したケアを実施し、説明できる □事例を用いて救命救急場面におけるリーダーシップを発揮して対応できる 	<ul style="list-style-type: none"> □患者の経済状況等優先順位を考え、負担の軽減を考慮した効果的なケアの調整をすることができる □実践の場における安全に関するリスクを予測した問題提起とその対応策を提案できる □感染発生時に、幅広い可能性を考慮しながらリスクをアセスメントし、リスクに対する様々な対応策を挙げることができる □複雑な状況において患者の症状や副作用から、薬物の使用有無や増減等の必要性を提案できる □事例を用いて、救命救急場面においてその場にいるメンバーチームを構成し、連携して救命処置を実施できる □事例を用いて、予測的な視点も含めてSBAR(状況、背景、評価、提案)を用いて報告できる 	<ul style="list-style-type: none"> □複雑な状況におけるケアの提供について根拠に基づく自律的な評価を行うことができる □災害時対応マニュアルを適宜見直し、関係機関・関係職種との防災体制を調整することができる □実践の場における安全に関するリスクについて、多職種間とリスクや対応策の共有を実施できる □感染症に適切に対処し、行政等関係機関に連絡して、感染拡大を防止する □患者の薬物の使用状況や副作用から、薬物の調整の必要性を提案することができる □複雑な状況における救命救急の対応についてチーム間で共有・確認することができる
目標	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす
協働する力	<ul style="list-style-type: none"> □病院の理念・活動目標を理解する □病院内における各職員の役割を把握できる □事例を用いて、関わるチームのメンバーが誰であるかを挙げ、自らの役割を説明できる □日常の場面において、簡潔に不足のない報告・連絡・相談ができる □助言を得ながら、患者が生活する地域の中で利用する社会資源を把握できる 	<ul style="list-style-type: none"> □患者に関わる関係機関と、それぞれの役割を理解する □同僚や多職種との情報伝達場面で、看護の方向性をわかりやすく伝えることができる □カンファレンスにおいて、目的や各職種の役割を理解した上で、必要な情報の収集と提供ができる □関係職種・機関に対して連携が必要な状況を判断し、適切に報告・連絡・相談ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □必要なタイミングを見極めてカンファレンスを開催することができる □多職種カンファレンスについて、事例を用いて説明できる □患者の希望する生活のために必要となる社会資源の過不足について検討し、コンサルテーションできる 	<ul style="list-style-type: none"> □カンファレンスや会議においてファシリテーターを務めることができる □地域のネットワーク会議等、他施設の看護師の参加する会議や場へ参加し、その目的や参加者の背景を理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> □主体的にチームを構成し、ケア提供における多職種連携を牽引するリーダーシップを発揮できる □地域の看護師と顔の見えるネットワーク構築やつながりを持ち、各立場の役割と自身の役割を踏まえて、ケア提供における地域連携の方法を提案できる
目標	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かす事ができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる
意思決定を支援する力	<ul style="list-style-type: none"> □助言を得ながら、意思表示が可能な患者について、患者や家族の思いや考え、希望を確認できる □日常の看護提供場面において、患者や家族へのわかりやすい説明による同意を得ることができる □終末期にある本人とその家族を支えるために必要なアセスメントの内容を理解する □看取りに関する法規やガイドラインを確認することができる 	<ul style="list-style-type: none"> □患者に提供されているケアの全体像を把握した上で、意思決定支援の場面に参加できる □患者や家族の思いや考え、希望から、価値観を推察できる □患者や周囲の人々の人権を尊重した行動ができる □看取りに対する本人・家族の希望を聴く事ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □意思決定の困難な状況における支援について事例を用いて説明できる □倫理的ジレンマから、倫理的問題や課題を明確にして説明できる □患者の療養の場の選択、看取り、治療の選択において、患者や家族の気持ちに寄り添い、苦痛の緩和ができる □看取りまでに必要となる援助の予測的・計画的な介入ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □倫理的問題や課題のある状況において、倫理的問題や課題の顕在化を図り、適切な方法の活用や相談行動・コンサルテーションを実施し、記録ができる □患者・家族や周囲の人々に対して看取りの場面向けた支援ができる □多職種間での予期悲嘆への関わりとグリーフケアが支援できる 	<ul style="list-style-type: none"> □倫理的問題や課題から、既存の仕組みやルール等を見直す提案ができる □より複雑な状況にある患者の看取りの場面向けた支援ができる □デスカンファレンスを開催しチーム全体で事例の振り返りをすることができる
目標	社会人・組織人としての自覚をもち行動する	専門職業人・組織人として、組織の中での役割を果たす	チーム全体の状況を捉えて行動する	所属部署で、専門的役割、または指導的役割を遂行する	所属を超えて、看護部や病院全体、地域社会から求められる役割を遂行する
組織的役割遂行	<ul style="list-style-type: none"> □法人、自施設、看護部の理念・方針、所属部署の目標が理解できる □組織の一員として責任ある行動をとることができる □チームメンバーの一員であることを認識できる 	<ul style="list-style-type: none"> □自施設の地域における役割と看護を関連づけて考えることができる □自分の役割を認識し、他スタッフと協力することができる □チームメンバーとしての役割を理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> □法人・自施設の理念、看護部の理念を踏まえた上で、部署の目標達成に向けた活動ができる □チームリーダーの役割を理解することができる 	<ul style="list-style-type: none"> □部署の現状を把握し、課題抽出と解決のための方策を考えることができる □教育プログラムへの参加および指導者としての役割を果たすことができる □チームメンバーの状況を把握し、調整のためのリーダーシップを発揮することができる 	<ul style="list-style-type: none"> □組織全体の現状を分析し、課題解決に向けた行動を部署全体に働きかけることができる □部署内の看護の質向上のための教育企画および運営ができる □状況に応じた治療やケアが受けられるよう、必要な部門・機関と連絡、調整ができる
目標	指導・助言を受けながら、自己の教育的課題に気付く	自己の教育的課題を見出す	自己の教育的課題達成に向けた教育活動を展開する	自己の教育活動に積極的に取り組むと共に、指導的な役割を実践する	専門領域や高度な看護技術などについて、自己教育活動を展開する
教育・研究	<ul style="list-style-type: none"> □組織内の研修に参加し看護の知識を深めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □外部の研修や学会に自主的に参加できる 	<ul style="list-style-type: none"> □問題意識をもち、学会等に参加できる 	<ul style="list-style-type: none"> □看護研究に取り組み学会等で発表できる 	<ul style="list-style-type: none"> □スタッフへの研究活動の指導ができる